

10th TERM BUSINESS REPORT

一般社団法人 障がい者アート協会 第10期事業報告書



ARTIST:Takeshi



MESSAGE

代表挨拶

熊本豊敏.

Toyotoshi Kumamoto

一人ひとりの才能、一瞬の輝きを未来へ繋ぐために——。 10年の歩みと感謝

このたび、一般社団法人障がい者アート協会は一つの大きな節目とも言える第10期を終え、ここに事業報告書を作成する運びとなりました。これまでの道のりを支えてくださったすべての皆様に、心より厚く御礼申し上げます。私たちの団体は、2015年に産声をあげました。当時はまさにゼロからのスタートでしたが、そもそも私をこの活動に導いてくれたのは絵を描くことが大好きだった特別支援学級に通う息子でした。彼が大好きな絵を通じて社会と繋がることで得た輝く笑顔を目にし、一人でも多くの人に同じ体験してもらいたいと思ったのです。10年かけてその構想を一つの形にできましたが、決して平坦ではなかった道のりを乗り越え、今日、こうして皆様にご報告できているのは、ひとえに活動を応援してくださる支援者の皆様、志を共にする協力を申し出ていただける団体、個人の方々、そして素晴らしい作品を生み出し続けてくれるアーティストの皆様の存在があったからです。

10年前の団体設立にあたり、登録者は私の息子ただ一人、作品数はわずか3点から始まりました。それが今や、登録アーティスト数は2,000名を超え、お預かりしている作品数は7万点という国内最大規模、そして障がい者支援団体としては国内唯一の著作権等管理事業者として文化庁に登録される団体となることができました。この7万点の一つひとつには、かつての息子がそうであったように、アートという概念を超えた誰にも真似できない「一瞬の輝き」が宿っています。オンラインギャラリーという仕組みを通じて、それらを「記録」し、「発信」し、社会と「繋ぐ」ことが、私たちの存在意義であると改めて確信しております。私たちはこれからも、アーティストが放つ純粋なエネルギーを大切に守りながら、より多くの人々へ届ける架け橋であり続けたいと考えております。次の10年に向けて歩みを進める当協会に対し、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

障がい者アート協会10年間の主な歩み

2015年12月 団体設立(埼玉県入間市)

2016

- オンラインギャラリー運営スタート
- デザイン会社(株式会社MOGU:埼玉県)と提携
- 第1回創作活動応援費支払い

2017

- Google Ad Grants プログラムへの参加
- シャディカタログギフト内「Charity」ページ掲載開始

2018

- 仮囲いアート第1号:埼玉県狭山市(日本セイフティー株式会社)
- 書籍(障がい者アートの未来を探して)出版
- アール・ブリュット国際フォーラム2018登壇

2019

- 公益社団法人日本理学療法士協会主催の助成金事業に認定
- TOPPANホールディングス主催「可能性アートプロジェクト」参画
- 収入1,000万円を超えて債務超過解消

2020

- ラジオ番組(TOKYO FM:サステナ・デイズ)とコラボレーション
- 公開作品数10,000点
- 横浜国立大学講義登壇
- 東京オリパラ施設(新豊洲UNIVERSAL COOL SPOT)に作品提供

2021

- リゾートホテル(THE LUIGANS Spa & Resort)とのコラボレーション(作品展示・ホテル内備品への作品二次利用)
- 埼玉県SDGsパートナー団体登録

2022

- ロジャーグラート×三国ワインとのコラボレーションに作品提供
- デジタルサイネージのサブスクリプションサービスに作品提供
- 参画プロジェクト(可能性アートプロジェクト)がメセナアワード2022大賞受賞

2023

- メタバース・アートギャラリーへ作品提供・原画、NFT販売(Decentraland)
- 著作権等管理事業者として文化庁登録(障がい者支援団体としては唯一)

2024

- 日本リユースシステム実施の能登震災復興支援(七尾市、輪島市)イベントにてミニ作品展示会実施(能登を応援する作品募集・提供)
- 公益財団法人社会貢献支援財団主催 第62回社会貢献者表彰

2025

- 三菱UFJフィナンシャル・グループおよび三菱UFJ銀行主催「Challenged Artist Project」に参画

事業総括 ～10年を振り返って～

障がいのある人々にとっての表現の場の確立

プラットフォーム「アートの手」への登録者数は
2,345名(前年比131%)、
登録作品数は7.3万点(前年比120%)を突破いたしました。
この裾野の拡大は、当協会がアーティストの皆様にとって欠かせない
表現の拠点としての信頼を獲得している証と言えます。
そして、この豊富なコンテンツ群こそが、
事業全体の価値を生み出す源泉となっています。

対価を生み出す収益事業の構築

7万点超えの作品群を、協力企業との連携を通じて経済的価値へと
変換する収益事業は、作品二次利用を軸に、
寄付・スポンサー・販売など多角的なチャンネルを統合した
「独自の事業モデル」として確立できました。
一方で、現行の運営体制下においては成長の踊り場に差し掛かっており、
今後はさらなる周知から事業拡大に繋げる「第二創業期」とも言える
成長フェーズへの移行が最重要課題であると認識しています。

企業の取り組み需要の顕在化

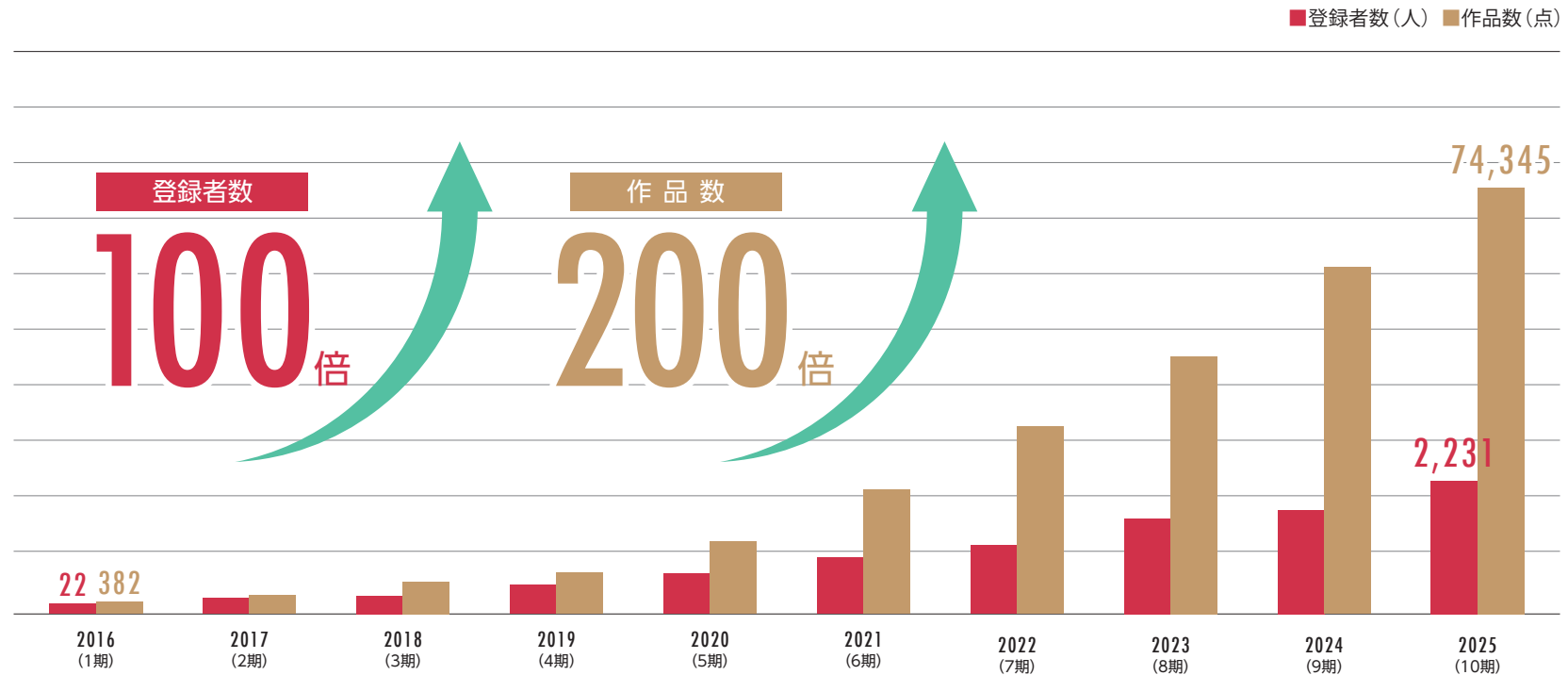
寄付を含めた収益事業の特筆すべき点は、
お取り組み企業の継続率(リピート率)が80%を超える
極めて高い水準を維持していることです。
これは、アートの活用が一時的な支援に留まらず、
SDGs、ESG、CSRといった企業の取り組みとして
事業戦略に組み込むことができる
「社会インフラ」として認識されていることを意味しています。

対価還元と経済的支援の規模・裾野拡大

収益事業による成果は、アーティストへの経済支援として
着実に還元されています。今期の支援総額は1,151万円(前年比112.5%)と
過去最高額を更新いたしました。
一人あたりの支援額はまだ大きなものではありませんが、
支援を受けたという「事実」は、アーティストが創作活動を継続するための
精神的な支えとなり、その実績がさらなる参加者の増加を
促すという「善の循環」を生み出しています。

当協会の10年にわたる実績は、本事業モデルの有効性を証明した一方で、
最小限のリソースによる成長限界まで到達できたという結果でもありました。
つまり、この10年間は、次なる成長フェーズ、第二創業期への転換点に到達するための期間であったと位置づけられます。
そして、この10期目に続く本年11期を、今後10万点に迫る勢いで増え続ける作品群の社会的価値を最大化し、
一層の規模拡大へと舵を切る重要なステージに移行する、真の飛躍への出発点と捉えています。

10年間の登録者数・作品数の推移



初年度と比較すると、登録者数は約100倍、公開作品数は約200倍と、事業規模は飛躍的に拡大しています。

特に登録者数は第6期まで急速な増加を示し、その後は成長速度が緩やかになったものの、

直近1~2年においても前期比約20%増という安定した増加基調を維持しています。

登録者数の増加に比例するかたちで公開作品数も堅調に推移しており、第10期末時点では、日々約40点の作品が新たに公開されています。

以上のことから、「アートの輪」においては、参加者(支援される側)の裾野を継続的に広げていく仕組みが確立されたと評価できます。

障がい者アートのお取り組み企業数・リピート率/リピート企業シェア率

【お取り組み企業数(10年合計)】

累計 **118** 社・団体

【リピート率※1】



【リピート企業のシェア率※2】



初年度から第10期までの累計で、118社の企業・団体に障がい者アートの活用にお取り組みいただきました。
 第9期においては69社の企業に参画いただき、そのうち57社が第10期も継続してお取り組みいただいております。リピート率は83%※1となっています。
 また、第10期においてお取り組みいただいた企業は62社であり、そのうち57社は前期から継続して参画いただいた企業であるので、リピート企業のシェア率は92%※2と非常に高い水準に達しました。
 このことから、当協会の取り組みはアート活用企業にとって十分な満足度と継続価値を提供できているものと考えています。
 一方で、第10期はリピート企業の比率が9割を超えていることから、今後のさらなる成長に向けては、新規企業・団体との取り組み拡大が重要な課題であると認識しています。

事業モデルの紹介

対価還元と納税

- ・著作権利用料
- ・創作活動応援費
- ・源泉所得税納付

使ってもらう

- 企業による作品二次利用
- ・ノベルティ
 - ・広報関連
 - ・展示等

生きがい提供

作品を見てもらえる、認知される、経済的対価を得るという満足感の享受

オンラインギャラリー



知ってもらう

オンラインギャラリー「アートの輪」

創作活動

作品公開支援

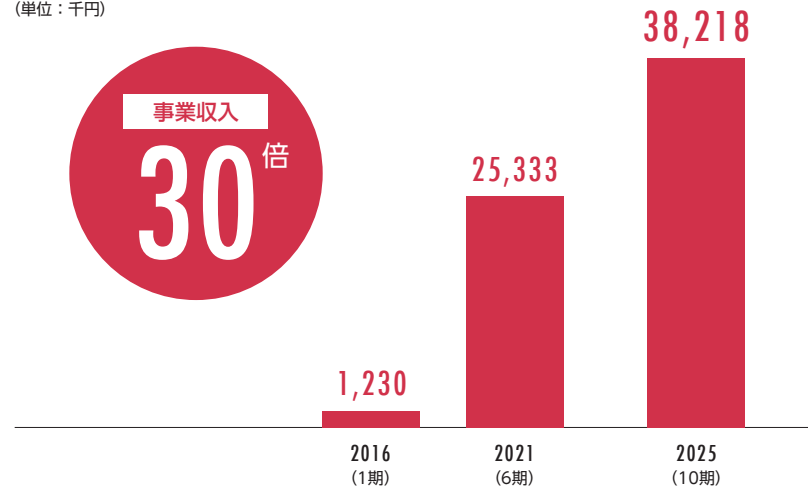
次なる創作活動、就労へ

社会参加の実現

文化芸術活動の推進

10年間の事業規模推移と経済支援の広がり

(単位：千円)



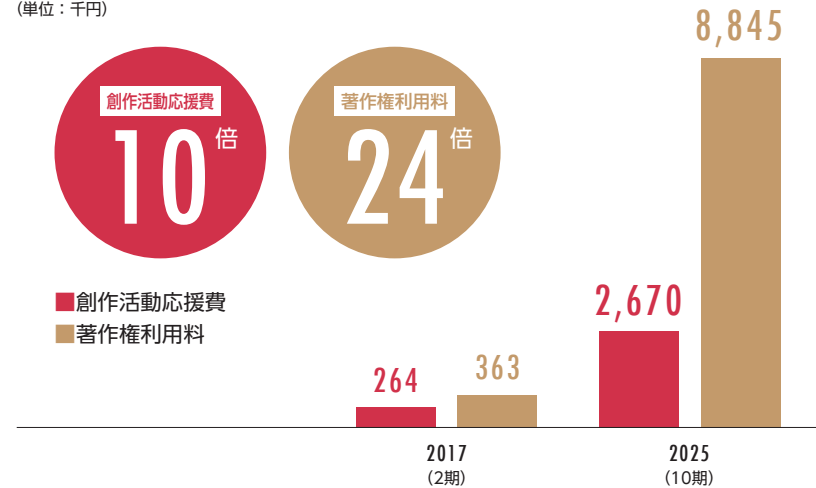
収入推移 (事業規模の成長)

当法人は、設立以来10年間にわたり、支援企業・関係者の皆様とともに事業を積み重ねてきました。事業収益は、1期：約120万円からスタートし、10期：約3,800万円へと拡大しています。単なる収入の増加ではなく、活動の幅と社会的な役割が徐々に広がってきた結果として、事業規模も段階的に成長してきたことが特徴です。

事業の拡大と安定化

中期以降(6期以降)は、事業収益：おおむね2,500万円～3,800万円規模。大きな急落なく、安定的に推移しており、一過性ではない継続性のある事業基盤が形成されてきました。これは、支援企業との継続的な関係、事業内容の成熟、社会的ニーズとの整合によるものと考えています。

(単位：千円)



経済支援額の推移 (対価還元・創作支援)

当法人の事業は、収益事業を行うだけでなく、その成果を適切に還元することを重視しています。10年間にわたり、著作権利用料(対価還元)、創作活動応援費(経済支援)として、対象者への支援を継続してきました。支援額の成長は2期時点から著作権利用料：約24倍、創作活動応援費：約10倍と、大きく拡大しています。

支援の「量」から「広がり」へ

支援の増加が意味するものは、支援対象者の増加や継続的な関係構築、創作活動を支える環境づくりなど、支援の質と裾野の広がりを伴う成長でした。現在では支援の輪は全国47都道府県すべてに広がり、事業の成長が支援の循環として還元されてきたことは、この10年間で象徴する成果のひとつです。

10年間の作品二次利用の主な実績

※一例です。



1



2



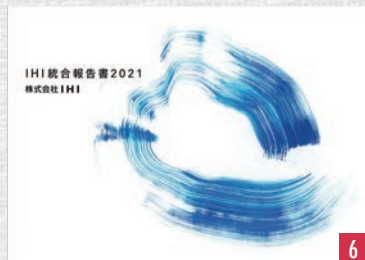
3



4



5



6



8



7



9



10

1 2016年(1期)

日本フィランソपी協会 機関誌表紙
当協会として初めての作品二次利用。

2 2017年(2期)

まちかど障がい者アートギャラリー1箇所目
この後、日本セイフティーとは10年間にわたり連携。

3 2018年(3期)

リーガルコーポレーション 商品展示会ビジュアル
会場タペストリー、お客様招待状、会場ポスターと多面的に展開。

4 2019年(4期)

アメリカのスポーツシューズブランド「Kaepa U.S.A.」との
コラボレーション。画像はコラボレーション第2弾のサイクルジャージ

5 2020年(5期)

東京ガス株式会社 東京オリパラ豊洲クールスポット
建物の外壁という初めての展開ケース。

6 2021年(6期)

株式会社IHI 統合報告書表紙
日本を代表する世界的企業の社会課題解決の取り組みの一つ。

7 2022年(7期)

イトーヨーカ堂×ウィンドベルデジタルサイネージ
テクノロジーの進化に合わせたアート展開の一つとして実現できた事例。

8 2023年(8期)

可能性アートプロジェクト×住友不動産ヴィラフォンテーヌ羽田空港
TOPPAN HLDとの共催「可能性アートプロジェクト」による取り組み。

9 2024年(9期)

ロジャーグラート×三国ワイン ワインボトル
海外企業交えた三者の連携企画。

10 2025年(10期)

鉄建建設株式会社 企業ノベルティ
2020年以降、各年アイテムを変えながらほぼ毎年継続いただく。

第10期事業報告 2024年12月～2025年11月

創作を続けるための、 確かな後ろ盾。

第10期におけるアーティストへの経済支援総額は1,151万円となり、前年比112.5%と過去最高を更新しました。著作権使用料や創作活動応援費として還元されたこれらの支援は、単なる金銭的援助にとどまらず、アーティストが自身の表現活動を社会に認められたと実感できる重要な意味を持っています。一人あたりの支援額は決して大きなものではありませんが、「支援を受けた実績」が創作継続の自信となり、次の表現へとつながっています。この積み重ねが新たな参加者を生み、表現と支援が循環する持続可能な仕組みを着実に育てています。



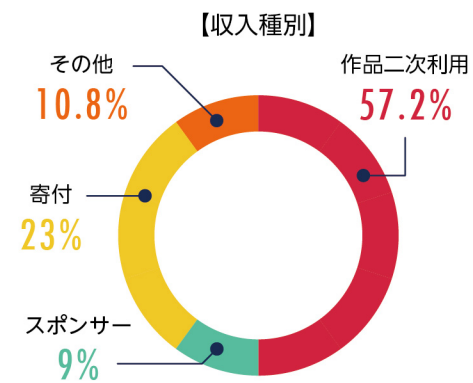
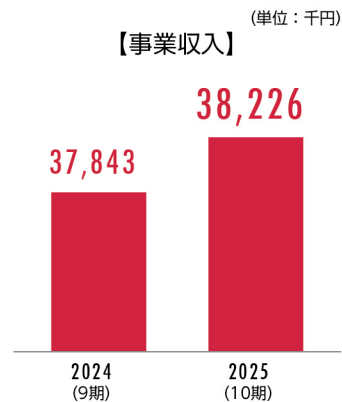
表現が集まり、 信頼が積み重なる。

プラットフォーム「アートの輪」の登録者数は、第10期末時点で2,231名となり、前年比122.3%と大きく伸長しました。10年間にわたり、障がいと向き合いながら創作を続けるアーティストに寄り添い、表現の場を提供し続けてきたことが、着実な成果として表れています。登録作品数は7万点を超え、多様な表現が蓄積されることで、プラットフォーム自体の価値が高まり、さらなる参加を呼び込む好循環が生まれました。第10期は、表現の拠点としての信頼が確かなものとなった一年でした。



社会的価値を、持続可能な経済価値へ。

第10期の収益事業は、当協会が10年間にわたり積み重ねてきた事業モデルの有効性と安定性を、改めて裏付ける結果となりました。寄付およびスポンサー収入は引き続き堅調に推移しており、障がい者アートを活用した取り組みが、一時的な社会貢献活動にとどまらず、企業活動や事業戦略の一部として継続的に組み込まれていることが明確になっています。一方で、作品の二次利用事業については成長の踊り場を迎えており、従来の延長線上ではない新たな活用方法や価値提案の必要性が浮き彫りとなりました。第10期は、これまでに培ってきた実績と信頼を土台に、次の成長フェーズへと進むための課題を整理し、方向性を見定める重要な転換点の一年であったと位置づけています。



10年で築いた、健全な財務基盤

財務基盤の改善と安定的な成長

当協会は、設立初期の第1期から第3期にかけて債務超過の状態にありましたが、第4期に黒字転換して以降、着実に純資産を積み上げてきました。

第1期に▲620千円であった純資産は、事業の継続的な成長と収支改善を背景に増加を続け、第10期には7,780千円の内部留保を確保するまでに至っています。

これは、単年度ごとの成果に依存するのではなく、10年間を通じて持続可能な運営を可能とする「最低限の財務基盤」が確立されたことを示すものです。

筋肉質で柔軟性の高い資産構成

資産構成においては、現預金を中心とした流動資産が大部分を占めており、固定資産への過度な投資を抑えた、柔軟性の高い運営を行っています。

また、第1期から第10期に至るまで固定負債は一貫して計上されておらず、

外部借入に依存しない無借金経営を継続しています。

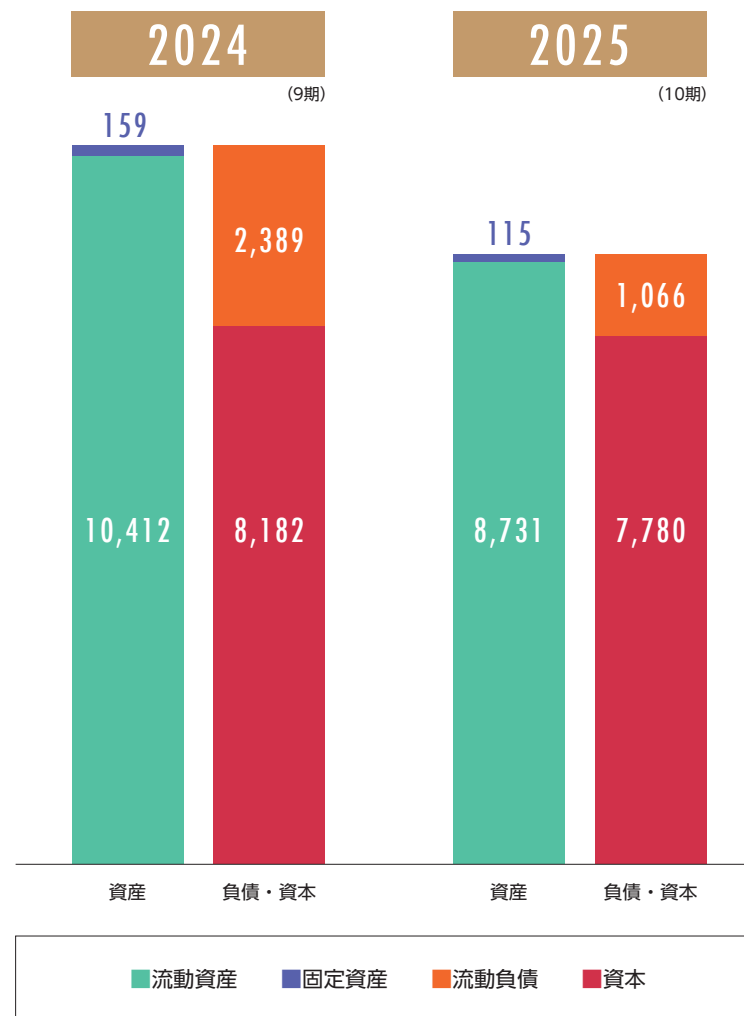
これにより、事業環境の変化にも迅速に対応できる健全かつ自立した財務体質を維持しています。

負債の性質と財務健全性

第8期および第9期において流動負債が発生していますが、これは主に未払消費税によるものであり、事業規模の拡大に伴う課税売上高の増加を反映したものです。これらの負債は支払能力の範囲内に十分収まっており、資金繰りや財務の安定性に影響を及ぼすものではありません。総じて、当協会の財務状況は極めて健全であり、安定した事業運営を継続できる状態にあると評価できます。

(単位：千円)

【貸借対照表 9期・10期】



第10期 作品二次利用活用事例

※一例です。



商品ラベル



展示会ビジュアル



冊子の表紙



企業カレンダー



企業ノベルティ



刺繍ハンカチ 800
円(内税)

しあわせをよんでくれるふくろ
うたち 1,500円(内税)

たこの背後蓋 1,500円(内税)

オリジナル雑貨ブランド



可能性アートプロジェクト 仮囲い



まちかど障がい者アートギャラリー 仮囲い

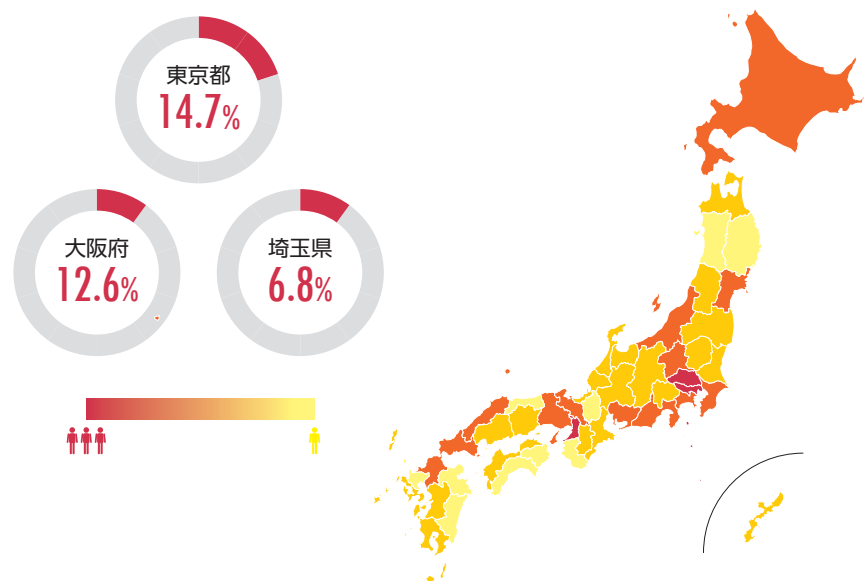


商品(食品)デザイン

第10期は企業の障がい者アート活用に対する作品の提供が、量・質ともに大きく広がった一年となりました。具体的には、ワインボトルや金太郎飴といった食品に加え、刺繍ハンカチなどのオリジナル雑貨(Gensekiブランド)等、アートを「鑑賞するもの」から「所有し、日常で使うもの」へと昇華させる取り組みへの作品提供が進展しました。これにより、アートに触れる層の裾野が着実に拡大しています。BtoBの分野では、馬淵建設様や安藤ハザマ様の建設現場仮囲いをはじめとした社会インフラ領域への継続的な導入、また株式会社CIJ様による企業ノベルティなど、ビジネスシーンにおける実用性と継続性が一層高まりました。さらに、全国社会福祉協議会様の冊子表紙や、日本アパレル・ファッション産業協会様主催の展示会ビジュアル採用など、公的・業界団体との大規模な連携も実現しました。第10期は、障がい者の生み出すアートが高い信頼性のもと、社会や業界を代表する「顔」として機能する段階へと進んだ一年であったと評価できます。

登録者参考資料

アートの輪 登録者分布図 ※第10期終了時点



第10期終了時点において、「アートの輪」には47都道府県すべてから登録者が参加しており、活動は全国規模へと広がっています。登録者は首都圏や主要都市に集中する傾向はあるものの、地方都市や地域部においても着実に増加しており、地域格差をあまり感じさせない広がりを見せています。これらの状況から、「アートの輪」は、日本全国の障がいのある方々にとって、居住地域に左右されることなく参加できる、平等で開かれた作品発表の場として機能していると評価できます。

登録者・アーティストの声

～描くことが、生きる力に～

- 応援していただいたスポンサー様に、感謝いたします。絵を描くことを続ける大きな励みになりました。
- この度は素晴らしい機会を与えて下さりありがとうございました。採用されてもされなくても挑戦することが出来ただけでも自身の糧となる経験をすることが出来たので心より感謝申し上げます。
- この度は、僕の絵を採用していただいて、ありがとうございます、これからも沢山絵を描いていくので、よろしくお願いします。
- もっともっと作品を描いていきたいです。ありがとうございます。
- こうして採用して頂けます事は、私だけでなく、多くのアーティストの方々にとって希望となり、励みになり、生き甲斐になります。心から感謝しています。本当にありがとうございます。また一つ生きた証ができました。こんなに素敵な形にしてくださりありがとうございます。
- いつも応援していただきありがとうございます。作品を世に広めてくれて幸いです。
- いつも創作活動にご支援いただき、ありがとうございます。応援費は、いつも新しい画材を購入する際に使わせて頂き、そのおかげで次の創作をすることが出来ているので本当に感謝しております。これからも新しい作品を創作し続けていけるように尽力してまいりますので、引き続きご支援ご協力の程、よろしくお願い致します。
- いつも大変お世話になっております。おかげさまで「自分にもできることがある」「がんばって良かった」と、創作活動の意欲に繋がっております。本当にありがとうございます。

未来ビジョン

～ 表現を通じて、誰もが社会とつながる未来へ ～

「次の10年、何を目指すのか」という問いに対し、私たちの答えはシンプルです。
それは、今取り組んでいることを、変わらずに、より深く、より広く続けていくことです。

私たちの取り組みは、一部の限られた才能にフォーカスを当て
そしてさらなる高みに引き上げるというものではありません。
私達が大切にしていることは、様々な障がいと向き合いながらも創作活動を続ける一人でも多くの人が、
自身のそのアートを通じて社会との接点を持ち、何らかの役割を感じることを、そして得ることです。

その機会を「特別なこと」から「当たり前のこと」へと変えていきたい。
私たちはこの10年、そのためにこの「役割を与える人」と「役割を得る人」
それぞれの裾野を広げるための仕組み化に向けた努力を積み上げてまいりました。

私たちが目指す未来は、この活動が社会の欠かせない「インフラ」として確立される世界です。
蛇口をひねれば水が出るように、街のあちこちに、企業の多種多様な事業活動の中に、
そして人々の暮らしの中に、彼ら彼女らの描いた作品たちがごく自然に存在している。

誰もが自然に、そして自分らしく社会に参加できる、そんな風景を、

次の10年も、皆様と共に作り続けていきたいと考えています。

熊本豊敏

ともに歩んだ10年、これからの10年へ。

お取り組み企業様一覧

株式会社ウェスト(旧:株式会社アイ・コーポレーション)
 株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ
 株式会社安藤・間
 安藤ハザマ興業株式会社
 医療法人愛美会
 株式会社イデビュ
 伊藤忠ファッションシステム株式会社
 株式会社イーネ
 イー・エー・ユー株式会社
 入間市商工会
 株式会社ウィンドベル
 株式会社エータイ
 株式会社エコリング
 株式会社エデュケーショナルネットワーク
 株式会社オーディオテクニカ
 株式会社オクムラ
 株式会社オフィスDB
 株式会社海神貿易
 株式会社神奈川ナブコ
 株式会社キョウエイアドインターナショナル
 株式会社靴商店インターナショナル
 株式会社クオライフドットコム
 株式会社くらつぐ
 キリンビバレッジ株式会社
 キャリアフィットグループ株式会社
 金鶴食品製菓株式会社
 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
 コパオリ株式会社
 株式会社サーヴォ
 株式会社NSQ

株式会社サンケイビル
 三和ホールディングス株式会社
 サントリービバレッジソリューション株式会社
 ジーレックスジャパン株式会社
 株式会社時代工房
 株式会社ジャックス
 株式会社しままプリント
 シャディ株式会社
 シー・アール・エム株式会社 (Be Block)
 ズームエナジージャパン合同会社
 スカイ・スクラップーズ株式会社
 ゼネラルビジネスマシン株式会社
 ぜんち共済株式会社
 ソフトバンク株式会社
 大有建設株式会社
 株式会社ダイバーシティ
 大成温調株式会社
 株式会社大丸松坂屋百貨店
 株式会社竹中工務店
 武田製靴株式会社
 竹村株式会社
 株式会社タツミコーポレーション
 棚田幸紀マネジメントオフィス
 株式会社チアドライブ
 千代田オフセット株式会社
 都築電気株式会社
 ティーダッシュ合同会社
 鉄建建設株式会社
 TOPPANホールディングス株式会社
 TOPPAN株式会社

TOPPANエッジ株式会社
 TOPPANグラフィック・コミュニケーションズ株式会社
 株式会社東栄科学産業
 株式会社東洋館出版社
 株式会社ドゥ・ハウス
 NSユナイテッド海運株式会社
 株式会社ニフコ
 一般社団法人日本アパレルファッション産業協会
 日本セイフティー株式会社
 株式会社日本取引所グループ
 株式会社日本能率協会マネジメントセンター
 日本マニファクチャリングサービス株式会社
 日本リユースシステム株式会社
 株式会社Hello World
 株式会社HRイノベーション
 株式会社ビジネス・インフォメーション・テクノロジー
 株式会社Plan・Do・See
 株式会社ブラッツ
 株式会社弁天
 株式会社コンテンツワークス
 リハビリママ&パパの会
 株式会社C I J
 株式会社JT Bコミュニケーションデザイン
 住友不動産ヴィラ・フォンテーヌ株式会社
 株式会社スタイズ
 ブックオフコーポレーション株式会社
 プルデンシャル・ジェネラル・サービス・ジャパン株式会社
 一般財団法人TOPPAN三幸会
 小川克巳全国後援会
 有限会社南印度洋行

株式会社八洋
 清水建設株式会社
 住友不動産株式会社
 株式会社プリントパック
 株式会社VAIABLE
 プルデンシャル生命保険株式会社
 飯能商工会議所
 ヒューフレディ・ジャパン合同会社
 株式会社ベネフィット・ワン
 株式会社ベスカ
 株式会社馬淵建設
 株式会社丸広百貨店
 株式会社丸の内よろず
 三国ワイン株式会社
 松本機械工業株式会社
 株式会社MOGU
 株式会社ヤマデン
 矢島建設株式会社
 横浜国立大学
 株式会社リコモス
 株式会社リーガルコーポレーション
 株式会社レポル
 リリカラ株式会社
 渡辺建設株式会社
 公益社団法人日本フィランソロピー協会
 一般社団法人社会貢献支援財団
 社会福祉法人全国社会福祉協議会
 NPO法人ReMind
 NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター

表現で、社会とつながる。



一般社団法人 障がい者アート協会
〒358-0026 埼玉県入間市小谷田656-2 グリーンコート101
代表理事 熊本豊敏 | 専務理事 水谷陽平 | 理事 柴田礼子